

研究・調査報告書

分類番号	報告書番号	担当
A-152	14-101	滋賀医科大学社会医学講座公衆衛生学部門
題名 (原題/訳)		
The effects of prenatal exposure to alcohol and environmental tobacco smoke on risk for ADHD: a large population-based study. 胎児期における飲酒と環境たばこ煙の ADHD リスクへの影響：大規模一般集団研究		
執筆者		
Han JY, Kwon HJ, Ha M, Paik KC, Lim MH, Gyu Lee S, Yoo SJ, Kim EJ.		
掲載誌		
Psychiatry Res. 2015 Jan 30;225(1-2):164-8. doi: 10.1016/j.psychres.2014.11.009.		
キーワード		PMID
注意欠陥多動性障害(ADHD)、アルコール、環境たばこ煙		25481018
要 旨		
目的： 注意欠陥多動性障害(ADHD)は、遺伝要因と環境要因の相互作用によって引き起こされる。本研究では、胎児期におけるアルコールと環境タバコ煙(喫煙者の呼気と副流煙) ADHD への影響を検討した。		
方法： 調査は 2007 年～2008 年に、韓国天安市の 53 の小学校の児童の両親に実施した。本研究に応じた 30,552 人の両親のうち、胎児期のアルコールと環境タバコ煙の質問に回答し、DuPaul Rating Scale(ADHD の行動評定指標)を完答した 19,940 人を分析対象とした。多重ロジスティック回帰分析を用いて、性、年齢、両親の教育歴、婚姻状況、ADHD の家族歴などの交絡要因を調整して、妊娠中のタバコとアルコールの曝露による ADHD 発症のオッズ比を算出した。		
結果： 妊娠中の母の飲酒は非飲酒に比して 1.55 倍(95%信頼区間(CI) : 1.33-1.82)、妊娠中の母の喫煙は非喫煙に比して 2.26 倍(95% CI : 1.45-4.80)、妊娠中の父の喫煙は非喫煙に比して 1.17 倍(95% CI : 1.98-1.39)、子の ADHD リスクは有意に上昇した。妊娠期間中に喫煙しなかった母親を 4 群に分けて検討したところ、妊娠期間中に飲酒せず環境タバコ煙の曝露がなかった者に比べ、飲酒なし且つ環境タバコ煙曝露有りで 1.16 倍(95%CI : 1.02-1.33)、飲酒有り且つ環境タバコ煙曝露なしで 1.19 倍(95%CI : 0.91-1.57)、飲酒有り且つ環境タバコ煙の曝露有りで 1.58 倍(95%CI : 1.31-1.91)リスクが高く、群間で有意に差を認めた(p<0.0001)。		
結論： 本研究結果は、妊娠期間中の環境タバコ煙とアルコールの同時曝露は子の ADHD のリスクを増大させることを示した。		